

⑨ 八尾・山田

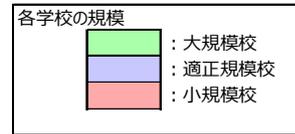
図 II-77 学級数・児童生徒数

小学校名 (4校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数												
八尾	2	50	2	40	2	44	2	44	1	37	2	54	11	269
杉原	2	52	2	36	2	51	2	50	2	77	2	63	12	329
保内	1	27	1	29	2	38	1	27	1	17	1	32	7	170
櫻尾	1	5	1	6	5	1	3	4	1	5	4	28	4	28

※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。
 ※櫻尾小は3・4年生及び5・6年生で複式学級を編制。

中学校名 (2校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
八尾	3	101	3	90	3	94	9	285
杉原	2	60	2	49	2	60	6	169

※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。



出典：「富山市の教育」（富山市教育委員会、令和3年9月）

図 II-78 小学校児童数推移



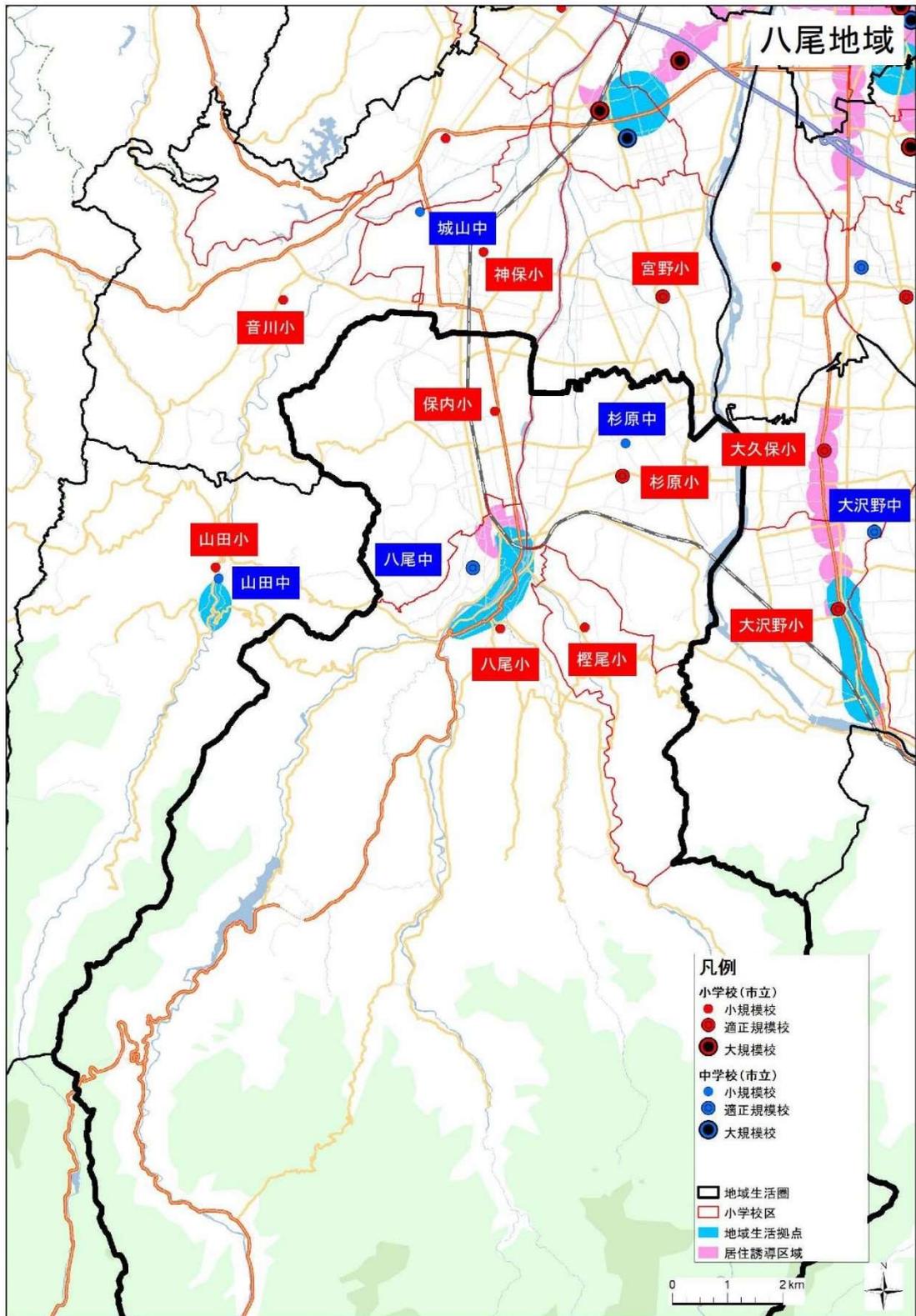
出典：昭和55年度～平成12年度：各学校沿革史（富山市）、平成17年度～令和2年度：「富山市の教育」（富山市教育委員会、平成17年9月～令和2年9月）、令和7年度～令和22年度：令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

図 II-79 中学校生徒数推移



出典：昭和55年度～平成12年度：各学校沿革史（富山市）、平成17年度～令和2年度：「富山市の教育」（富山市教育委員会、平成17年9月～令和2年9月）、令和7年度～令和22年度：令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

図 II-80 学校位置図



※学校規模は令和3年5月1日時点

図 II-81 学級数・児童生徒数

小学校名 (1校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数												
山田	1	12	4	4	1	9	1	11	1	10	1	9	5	55

※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。
 ※山田小は2・3年生で複式学級を編制。

中学校名 (1校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
山田	1	13	1	9	1	12	3	34

※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。

各学校の規模	
■	大規模校
■	適正規模校
■	小規模校

出典：「富山市の教育」（富山市教育委員会、令和3年9月）

図 II-82 小学校児童数推移



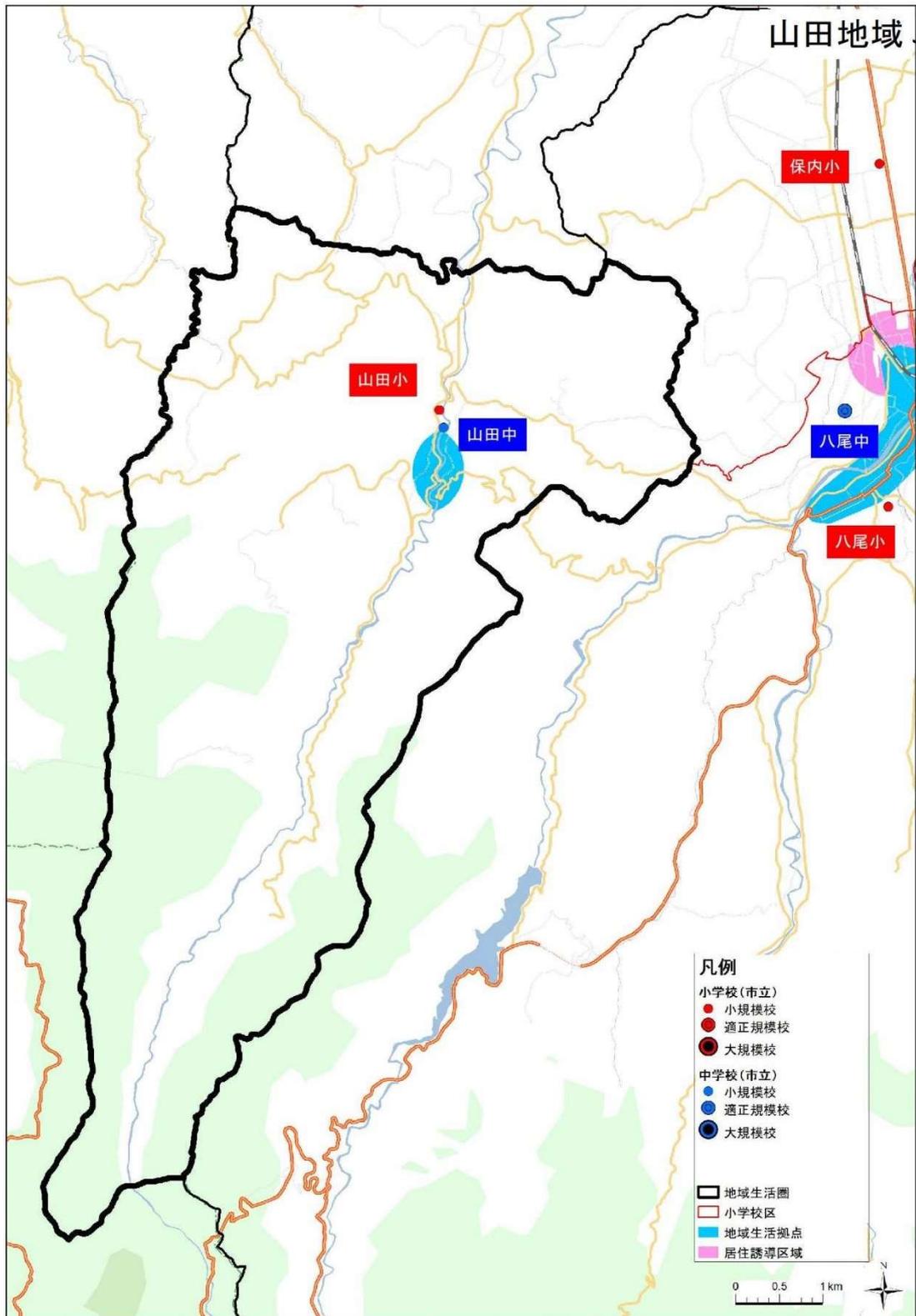
出典：昭和55年度～平成12年度：各学校沿革史（富山市）、平成17年度～令和2年度：「富山市の教育」（富山市教育委員会、平成17年9月～令和2年9月）、令和7年度～令和22年度：令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

図 II-83 中学校生徒数推移



出典：昭和55年度～平成12年度：各学校沿革史（富山市）、平成17年度～令和2年度：「富山市の教育」（富山市教育委員会、平成17年9月～令和2年9月）、令和7年度～令和22年度：令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

图 II-84 学校位置图



※学校規模は令和3年5月1日時点

再編する学校の姿



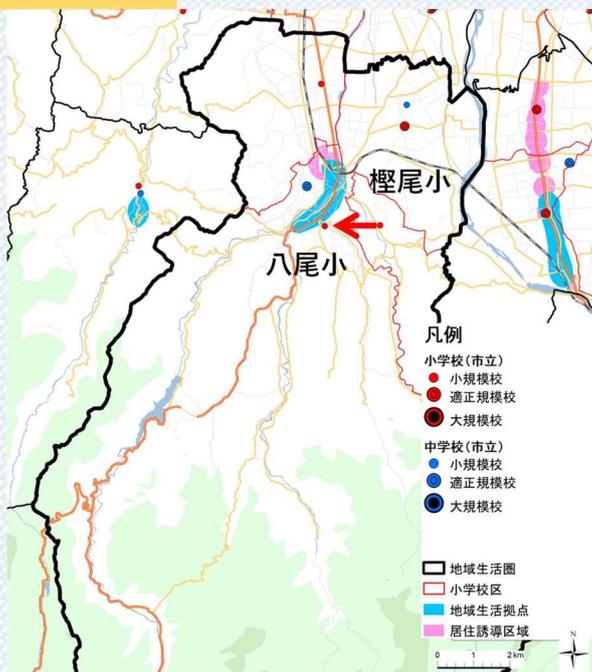
※〔 〕内は進学先中学校

※()内は学校規模

※再編の組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4（1）、（3）及び（4）に基づく

※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（「富山市の教育」）

該当する地域生活圏及び小学校区



本計画	No.19
再編原案	八尾-1(1)①

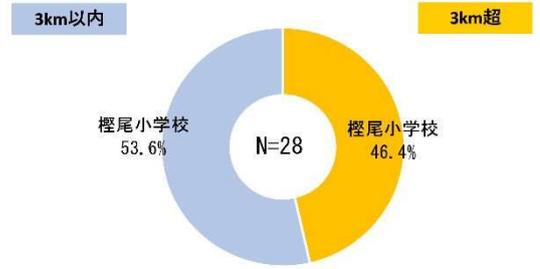
再編後の概況

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の通学距離



※現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の学校規模（学級数）



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下
 ※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っている。
 不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている。
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホート変化率法に基づく推計生徒数により学級数を算出

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎 (建築年数29年)	-	B	B	B	B	B
体育館 (建築年数27年)	-	D	B	B	B	B

A：概ね良好
 B：部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）
 C：広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）
 D：早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり）
 ※富山市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
 （洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所）

※富山市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

コメント

- 【通学距離】 3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】 3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【必要教室数】 令和7、12、17、22年のいずれの時点においても小規模校となる。
- 【施設健全度】 教室数は充足している。
- 【周辺状況】 一部老朽化が進んでいる。
地域生活拠点（立地適正化計画）付近に位置する。
- 【その他】 農地法第5条第4の規定に基づく協議書が必要となる可能性がある。
最終的には八尾地域統合中学校への集約を検討する。

再編する学校の姿

再編する学校の姿

再編の組み合わせ

再編対象校

- 榎尾小学校〔八尾地域統合中（令和4年4月～）〕
児童生徒数：28人
学級数：4学級(小規模校(複式学級を含む))



再編対象校と組み合わせる学校

- 杉原小学校〔八尾地域統合中（令和4年4月～）〕
児童生徒数：329人
学級数：12学級(適正規模校)

再編先学校

現 杉原小学校〔八尾地域統合中（令和4年4月～）〕

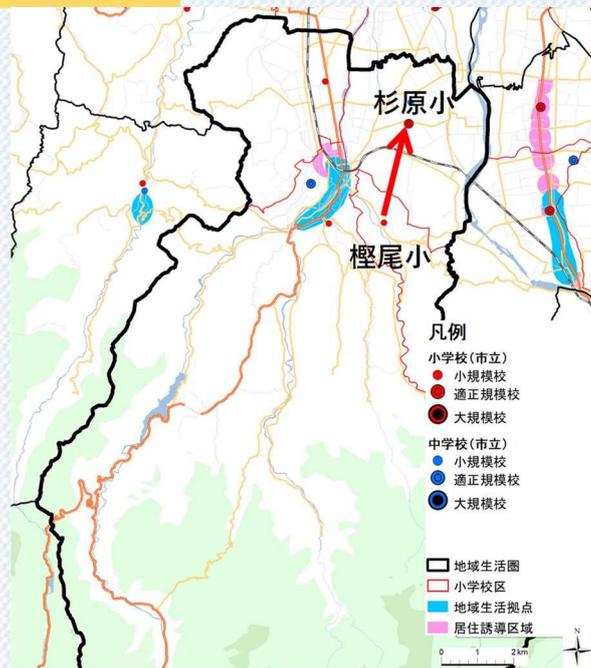
※〔 〕内は進学先中学校

※()内は学校規模

※再編の組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4（1）、（3）及び（4）に基づく

※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（「富山市の教育」）

該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

本計画	No.20
再編原案	八尾-1(1)②

再編後の概況

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の通学距離



※現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の学校規模（学級数）



※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っている。
 不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている。

※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホート変化率法に基づく推計生徒数により学級数を算出

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数25年)	-	C	B	C	B	B
校舎2 (建築年数14年)	-	A	A	A	A	A
体育館 (建築年数22年)	-	B	B	B	B	B

A：概ね良好
 B：部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）
 C：広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）
 D：早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり）
 ※富山市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
 （洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所）

※富山市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7年は適正規模校となるが、その後令和12、17、22年は小規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】一部老朽化が進んでいる。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域（立地適正化計画）外に位置する。農用地区域からの除外が必要となる可能性がある。

再編する学校の姿

再編する学校の姿

再編の組み合わせ

再編対象校

- 檜尾小学校〔八尾地域統合中（令和4年4月～）〕
児童生徒数：28人
学級数：4学級(小規模校(複式学級を含む))



再編対象校と組み合わせる学校

- 八尾小学校〔八尾地域統合中（令和4年4月～）〕
児童生徒数：269人
学級数：11学級(小規模校)
- 保内小学校〔八尾地域統合中（令和4年4月～）〕
児童生徒数：170人
学級数：7学級(小規模校)
- 杉原小学校〔八尾地域統合中（令和4年4月～）〕
児童生徒数：329人
学級数：12学級(適正規模校)

再編先学校

八尾地域統合中学校併設小学校〔八尾地域統合中〕

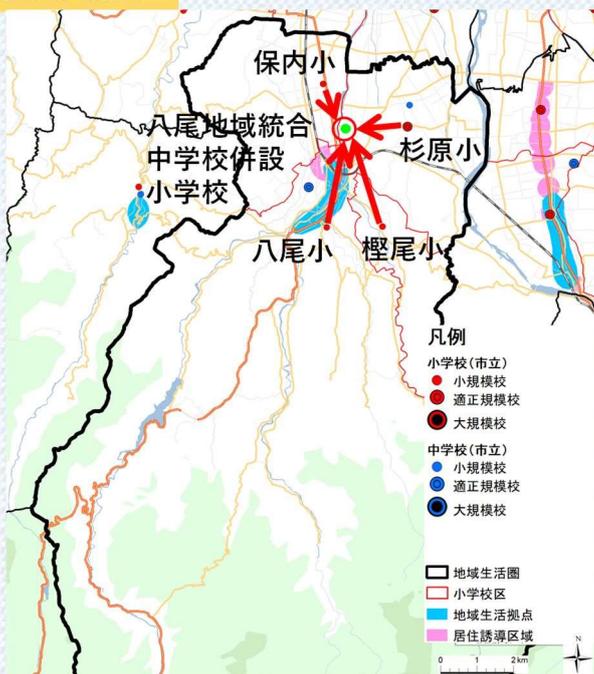
※〔〕内は進学先中学校

※()内は学校規模

※再編の組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4（1）、（3）及び（4）に基づく

※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（「高山市の教育」）

該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

本計画	No.21
再編原案	八尾-1(2)

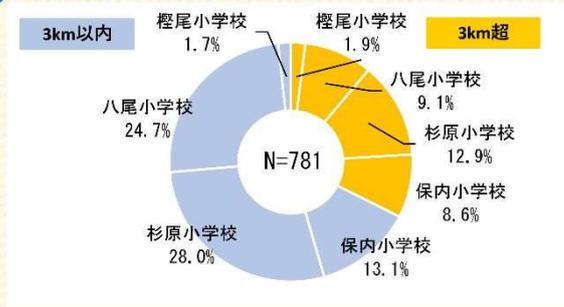
再編後の概況

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の通学距離



※現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の学校規模（学級数）



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下
 ※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っている。
 不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている。
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の施設健全度

	大規模改造済	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
-						
-						
-						
-						
-						
-						

A：概ね良好
 B：部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）
 C：広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）
 D：早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり）
 ※富山市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

-

※富山市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

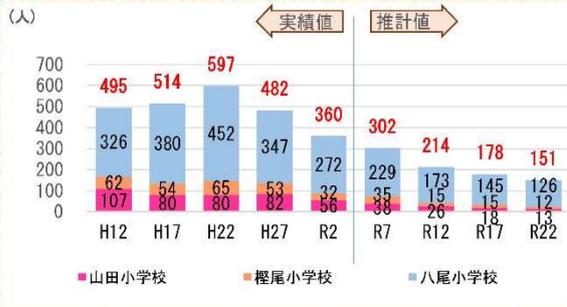
コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12年は大規模校となるが、その後令和17、22年は適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数が充足するよう小学校棟の増築が必要となる。
- 【施設健全度】-
- 【周辺状況】地域生活拠点（立地適正化計画）付近に位置する。農用地域からの除外が必要となる可能性がある。
- 【その他】八尾地域統合中学校は令和4年4月に開校予定である。

本計画	No.22
再編原案	八尾・山田-1(1)

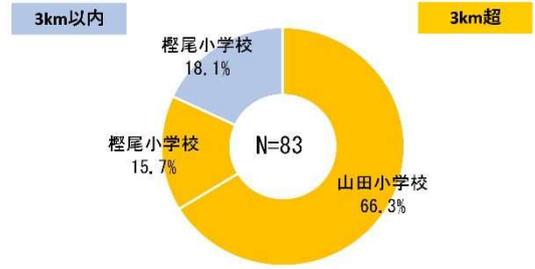
再編後の概況

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の通学距離



※現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の学校規模（学級数）



※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っている。
 不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている。

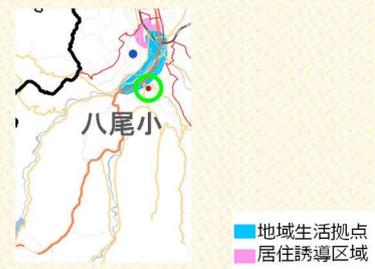
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホート変化率法に基づく推計生徒数により学級数を算出

再編先学校の施設健全度

	大規模改造済	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎 (建築年数29年)	-	B	B	B	B	B
体育館 (建築年数27年)	-	D	B	B	B	B

A：概ね良好
 B：部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）
 C：広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）
 D：早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり）
 ※富山市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
 （洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所）

※富山市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても小規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】一部老朽化が進んでいる。
- 【周辺状況】地域生活拠点（立地適正化計画）付近に位置する。
- 【その他】最終的には八尾地域統合中学校への集約を検討する。

再編する学校の姿

再編する学校の姿

再編の組み合わせ

再編対象校

- 檜尾小学校〔八尾地域統合中（令和4年4月～）〕 ● 山田小学校〔山田中〕
 児童生徒数：28人 児童生徒数：55人
 学級数：4学級(小規模校(複式学級を含む)) 学級数：5学級(小規模校(複式学級を含む))

再編対象校と組み合わせる学校

- 八尾小学校〔八尾地域統合中（令和4年4月～）〕 ● 保内小学校〔八尾地域統合中（令和4年4月～）〕
 児童生徒数：269人 児童生徒数：170人
 学級数：11学級(小規模校) 学級数：7学級(小規模校)
- 杉原小学校〔八尾地域統合中（令和4年4月～）〕
 児童生徒数：329人
 学級数：12学級(適正規模校)

再編先学校

八尾地域統合中学校併設小学校〔八尾地域統合中〕

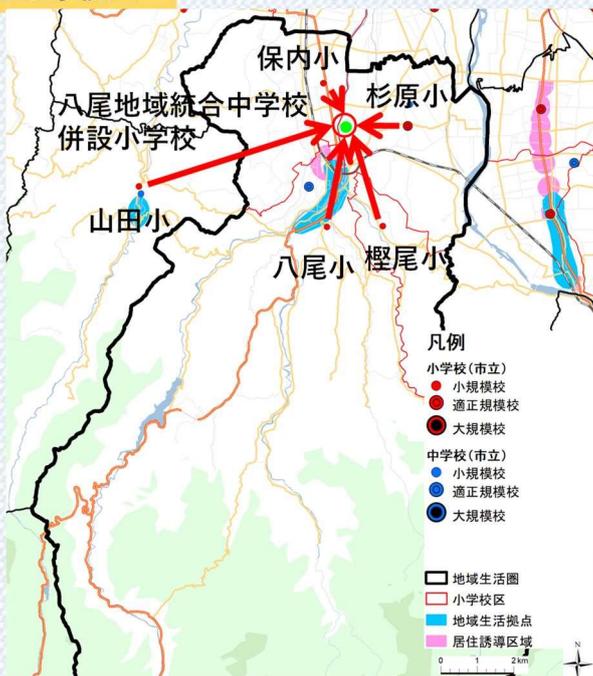
※〔 〕内は進学先中学校

※()内は学校規模

※再編の組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4（1）、（3）及び（4）に基づく

※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（「富山市の教育」）

該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

本計画	No.23
再編原案	八尾・山田-1(2)

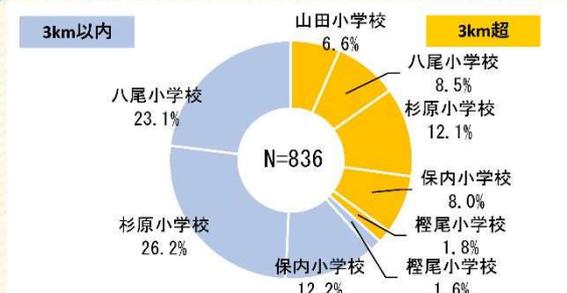
再編後の概況

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の通学距離



※現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の学校規模（学級数）



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下
 ※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っている。
 不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている。
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の施設健全度

	大規模改造済	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
-						
-						
-						
-						
-						
-						

A：概ね良好
 B：部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）
 C：広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）
 D：早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり）
 ※富山市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

-

※富山市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12年は大規模校となるが、その後令和17、22年は適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数が充足するよう小学校棟の増築が必要となる。
- 【施設健全度】-
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域（立地適正化計画）外に位置する。
- 【その他】八尾地域統合中学校は令和4年4月に開校予定である。

再編する学校の姿



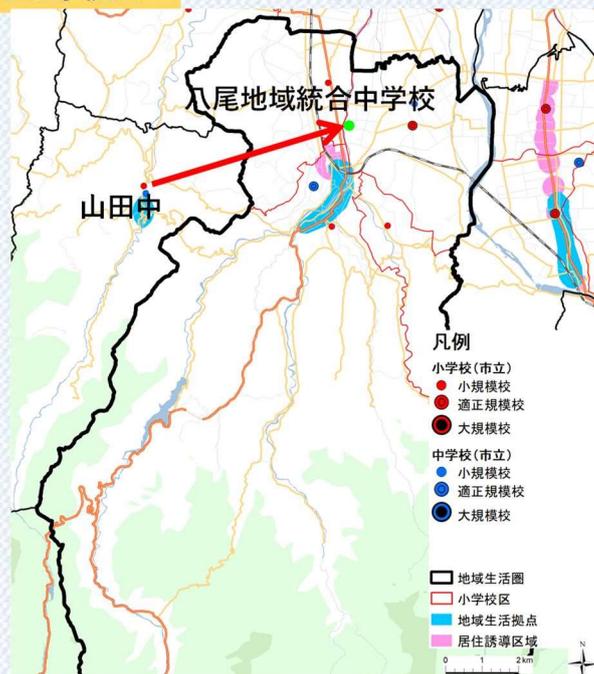
※〔 〕内は進学先中学校

※()内は学校規模

※再編の組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4（1）、（3）及び（4）に基づく

※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（「富山市の教育」）

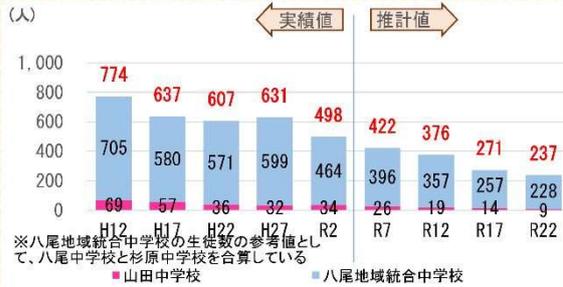
該当する地域生活圏及び小学校区



本計画	No.24
再編原案	八尾・山田-2

再編後の概況

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が9学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が8学級以下
 ※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編後の通学距離



※現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている。
 不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている。
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホート変化率法に基づく推計生徒数により学級数を算出

再編先学校の施設健全度

	大規模改造済	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-

A：概ね良好
 B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
 C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)
 D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
 ※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分



※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17年は適正規模校となるが、その後令和22年は小規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】-
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)外に位置する。
- 【その他】八尾地域統合中学校は令和4年4月に開校予定である。